

嚥下機能の評価

(東北大学)

簡易検査 (ベッドサイド):

反復唾液嚥下試験

水のみ試験

フードテスト

■ フードテスト

方法

ティースプーン1杯 (3~4g) のプリンなどを嚥下させてその状態を観察する。嚥下が可能な場合には、更に2回の嚥下運動を追加して評価する。評点が4点以上の場合は、最大3回まで施行し、最も悪い評点を記載する。

評価

評点

- 1点 嚥下なし、むせまたは呼吸変化を伴う
- 2点 嚥下あり、呼吸変化を伴う
- 3点 嚥下あり、呼吸変化はないが、むせあるいは湿性嘔声や口腔内残留を伴う
- 4点 嚥下あり、呼吸変化なし、むせ、湿性嘔声なし、追加嚥下で口腔内残留は消失
- 5点 4点に加え、追加嚥下運動 (空嚥下) が30秒以内に2回以上可能

判定不能

口から出す、無反応

■ 反復唾液嚥下テスト (RSST)

方法

唾液嚥下を30秒間繰り返してもらおう。
「できるだけ何回も飲み込んでください」と指示。
のど仏のあたりに指をあてて嚥下の有無を確認する。

評価

30秒間に2回以下の場合、嚥下開始困難、誤嚥が疑われる
3回以上の場合、ほぼ問題なし

■ 改訂水飲みテスト (MWST)

方法

冷水3mLを口腔前庭に注ぎ、嚥下してもらおう。

判定基準

1. 嚥下なし、むせる、そして/または、呼吸切迫
2. 嚥下あり、呼吸切迫 (不顕性誤嚥の疑い)
3. 嚥下あり、呼吸良好、むせる、そして/または、湿性嘔声 (しっせいざせい) ※)
4. 嚥下あり、呼吸良好、むせない
5. (4)に加え、空嚥下の追加を指示し、30秒以内に2回空嚥下可能

評価

上記5段階で評価、(3)以下の場合、誤嚥が疑われます。

※) 湿性嘔声…湿ったガラガラ声のこと。嚥下の後にみられると、咽頭残留や誤嚥が疑われます。

全てクリアすると全粥食から開始できる場合が多い

Eiyoshi-web.com より